

「平成版」大阪天神めぐり」選定

高木 昌之

【目的】

“天神様”こと菅原道真公最大の強みは、現代においても老若男女を問わず幅広く支持されていることである。特に大阪では、“天神さん”として親しまれ、日本三大祭のひとつ「天神祭」が盛大に執り行われている。この信仰パワーを、祭礼だけにとどまらず、観光業、交通業等の発展にまで波及させられないものかと考えていたところ、大阪にかつて天神社を巡る風習があったことを知った。そこで、波及させる手法のひとつとして、「大阪天神めぐり」を“平成版”にアレンジして復興させることを発想した。

巡礼としては、近年では、京都で2012年（平成24年）に「京都十二薬師霊場会」が復興し、大阪でも2011年（平成23年）に宗祖法然上人800年大遠忌記念事業の一環として「大阪新四十八願所阿弥陀巡礼」が復興しており、この流れを生かしたい。

【内容】

大阪にかつて存在していた天神めぐりの巡拝パターンを確認し、そこに挙げられた各天神社のその後の変遷と現状を調査する。その上で、それらの中から今回改めて「“平成版”大阪天神めぐり」二十五社を選定する。なお、“二十五”は、菅原道真公が845年（承和12年）6月25日に誕生され903年（延喜3年）2月25日に薨去されたことなどから、天神信仰ゆかりの数字とされている。

選定にあたっては、歴史的事実をできる限り尊重することで、恣意的な要素を排除し客観性を持たせる。これは、「“平成版”大阪天神めぐり」の正当性を確保するとともに、歴史的な重み、楽しみを付加するためである。また、公共交通機関利用を前提とするルート設定を行い、その利用促進にも寄与できるよう配慮する。

【結果】

大阪の天神めぐりとしては、過去に地誌等に6回の記載が見受けられ、その巡拝パターンは、江戸時代中～後期に2つ、昭和時代初期に1つ、存在していたことが確認された。そこで、この3つの巡拝パターンに挙げられた天神社を全てリストアップし、重複を除いた37社寺を対象に現地調査を行った。

石碑を残すだけになってしまったものもあったが、幸いにも痕跡が完全に失われてしまったところはなかった。但し、肝心の天神社が消滅してしまっている社寺は多く、最終的に現在でも天神巡拝が可能と判断できた25社寺を、「“平成版”大阪天神めぐり」二十五社に選定した。

今回の研究が呼び水となり、改めて“天神さん”が注目され、「大阪天神めぐり」が復興することを期待したい。

1. 大阪における天神めぐりの存在

大阪の天神めぐりの歴史を地誌等で辿ると、下表のとおり6回の記載が確認された。巡拝パターンは3つに分類され、それぞれ登場した最初の年号により「延享」「明和」「昭和」と名付けることにする。

なお、『大坂寺社順拝記』と『安永版難波丸綱目』は、全く同じ版を使用している。また、『大阪史蹟辞典』の巡拝先は、『郷土研究上方』と一致していることなどから、ほぼこれを引用したものと推察される。ちなみに、この「昭和」の巡拝パターンは、風習として定着していたものというよりは、“一時的な復活への試み”という色彩が強い。

大阪天神めぐり記載状況一覧

巡拝パターン	年	書名	天神めぐり
延享	1749年(延享4年)	『浪花寺社巡』	天神廿五社廻
明和	1772年(明和9年)	『大坂寺社順拝記』	天満宮廿五社
	1777年(安永6年)	『安永版難波丸綱目』	天満宮廿五社
	1841年(天保8年)	『難波巡覧記』	天満天神宮順拝
昭和	1932年(昭和7年)	『郷土研究上方』	新撰天神廿五社巡り
	1986年(昭和61年)	『大阪史蹟辞典』	大阪天神めぐり

2. 「平成版」大阪天神めぐり」二十五社の設定

(1) 37社寺の現状調査

「平成版」大阪天神めぐり」二十五社の設定にあたっては、まず3つの巡拝パターンに登場した天神社全ての現状を調査しなければならない。対象は、重複を除いても37社寺に上った。

福島天満宮行宮(旧天満宮中之社)のように社殿は失われ石碑のみとなっていたり、露天神社末社難波神明社(夕日神明社)のように別の神社の末社となっていたりするものはあったが、幸いなことに37社寺全てで痕跡は残されていた。

ただ、近代に入って大阪の天神社を襲った2つの大きな災難、明治期の神社合祀政策と第二次世界大戦の空襲による被害はあまりに甚大であった。特に空襲の影響は大きく、全体の68%にあたる25社寺が被害を受け、うち10社寺において天神社は失われたままで復活していなかった。

一方で、西成区の法祐寺で、かつて中央区千日前にあった頃の阪町天神の遺物らしき神像が残されていることが判明したり、北区の天徳寺で、戦災で失われた白髭天神社が今世紀に入って復活したことが確認されたりするなど、明るい発見もあった。



本邦初公開の法祐寺所蔵伝菅原道真像

(2) 二十五社の選定

37社寺の現状調査に基づき、「平成版」大阪天神めぐり」二十五社の選定を行った。選定にあたっては、“巡拝”という趣旨を重視し、以下の3条件全てを満たすことを必須とした。

- ① 巡拝対象となる天神社が存在すること。 →対象外10社寺
- ② 通常、境内が開放されていること。 →対象外2寺
- ③ 将来の朱印対応を考慮し有人であること。 →対象外2社

対象外は、単純合計では14社寺であるが、2社寺に重複があるため、実際には12社寺である。結果、3条件全てを満たしたのは25社寺となり、これらの天神社を「平成版」大阪天神めぐり」二十五社とした。

(3) 巡拝順の決定

巡拝順の決定にあたっては、最重要視される第1番(発願社)、第25番(結願社)だけを決め、その他については、利便性と経済性を考慮し、大阪市交通局1日乗車券「エンジョイエコカード」の利用を想定して、地下鉄、市バスの利用を前提としてつないだ。

第1番については、3つの巡拝パターン全てで一致していたので大阪天満宮に固定した。一方、第25番については、「延享」「昭和」では生根神社(住吉区)、「明和」では神明神社(当時は中央区、現在は大正区)と割れたが、神明神社の場所が当時とは異なることや巡拝経路の効率性を鑑み、生根神社(住吉区)とした。

(4) 設定手順と結果のまとめ

上記の設定手順と結果を一表にまとめると下表の通りとなる。

「平成版」大阪天神めぐり」二十五社 一覧

巡拝順	巡拝社寺	菅原道真公祭祀	所在地	戦災被害	朱印	巡拝順		
						延享	明和	昭和
1	大阪天満宮 [天満の天神さん]	本殿	北区天神橋 2-1-8	なし	可	1	1	1
2	寶珠院 [天満寺]	鎮守社	北区与力町 1-2	あり	可		2	2
3	天徳寺 [白髭天神]	鎮守社	北区与力町 2-1	あり	可	2	3	
4	綱敷天神社 [喜多埜天神]	本殿	北区神山町 9-11	あり	可	3	4	3
5	綱敷天神社御旅社	本殿	北区茶屋町 12-5	なし	可	4	5	
6	露天神社 [お初天神]	本殿	北区曾根崎 2-5-4	あり	可	7	8	4
7	福島天満宮 [上の天神]	本殿	福島区福島 2-8-1	なし	可	8	9	5
8	天神社 [下の天神]	本殿	福島区玉川 1-4-5	なし	可	10	11	7
9	朝日神明社	本殿	此花区春日出中 1-6-21	あり	可	16	22	
10	天満宮 [三先天満宮]	本殿	港区三先 1-5-40	なし	可			10
11	神明神社 [日中神明宮]	境内社	大正区鶴町 2-7-29	あり	可	17	25	
12	八坂神社 [上のやさかさん]	境内社	大正区三軒家東 2-7-18	あり	可			11
13	御霊神社	境内社	中央区淡路町 4-4-3	あり	可	13	24	
14	坐摩神社 [ざま神社]	境内社	中央区久太郎町 4 渡辺 3	あり	可	14	23	
15	天然寺 [おちつき天神]	鎮守社	天王寺区城南寺町 4-5	あり	不可			18
16	生國魂神社 [生玉さん]	境内社	天王寺区生玉町 13-9	あり	可	21	18	16
17	法泉寺 [潮待天神]	鎮守社	天王寺区生玉寺町 1-26	あり	不可	22	17	
18	安井神社 [安居天満宮]	本殿	天王寺区逢坂 1-3-24	あり	可	23	16	14
19	五條宮	境内社	天王寺区真法院町 24-9	なし	可			15
20	御幸森天神宮 [しあわせの森]	境内社	生野区桃谷 3-10-5	なし	可			20
21	田島神社	本殿	生野区田島 3-5-34	なし	可			21
22	天神社 [桑津天神社]	本殿	東住吉区桑津 3-4-17	なし	可			22
23	天満宮 [天神ノ森天満宮]	本殿	西成区岸里東 2-3-19	なし	可	24		23
24	生根神社 [上の天神]	本殿	西成区玉出西 2-1-10	あり	可			24
25	生根神社 [奥の天神]	境内社	住吉区住吉 2-3-15	なし	可	25		25
	圓通院	なし	北区兎我野町 7-8	あり	非公開	5	7	
	露天神社末社難波神明社 [夕日神明社]	なし	北区曾根崎 2-5-4	あり	可	6	6	
	福島天満宮行宮 [中の天神跡地]	社殿無	福島区福島 4-1	あり	無人	9	10	6
	茨住吉神社	なし	西区九条 1-1-17	あり	可	11	13	8
	大阪天満宮行宮	行宮	西区千代崎 2-21	あり	無人	12	12	9
	御津宮 [御津八幡宮]	なし	中央区西心斎橋 2-10-7	あり	可	15	14	
	玉造稲荷神社 [玉造神社]	なし	中央区玉造 2-3-8	あり	可	18	21	19
	三光神社	なし	天王寺区玉造本町 14-90	あり	可	19	20	
	高津宮	なし	中央区高津 1-1-29	あり	可	20	19	17
	法祐寺 [阪町天神]	鎮守社	西成区旭 3-4-9	なし	非公開		15	
	難波八阪神社 [なんばの八阪さん]	なし	浪速区元町 2-9-19	あり	可			12
	敷津松之宮 [木津の大国さん]	なし	浪速区敷津西 1-2-12	あり	可			13

(注) 巡拝順の色分けは、3日で廻る場合の目安 (赤: 1日目、緑: 2日目、青: 3日目) を示す。

(5) 巡拝図

「平成版」大阪天神めぐり二十五社の位置は下図の通りであり、巡拝に要する日数の目安は3日である。

「平成版」大阪天神めぐり二十五社 巡拝図



25 : 巡拝順 (赤 : 1 日目、緑 : 2 日目、青 : 3 日目)

(OpenStreetMap を使用)

◆参考文献等

- 三善貞司編 (1986) 『大阪史蹟辞典』清文堂出版、野間光辰鑑修 (1977) 『校本難波丸綱目』中尾松泉堂書店、上方郷土研究会編 (1932) 『郷土研究上方第十五号』創元社、田中智彦著 (2004) 『聖地を巡る人と道』岩田書院、大阪府神社庁 (1986) 『大阪府神社史資料 復刻』、神社と神道研究会編 (2004) 『菅原道真事典』勉誠出版、川端直正編 (1968) 『西成区史』西成区市域編入四〇周年記念事業委員会、近江春子編 (2010) 『大阪天満宮 天神祭と流鏝馬式史料』関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センター、大阪市産業部 (1936) 『大大阪観光地図』国際日本文化研究センター所蔵、昭文社 (2015) 『街の達人 大阪便利情報地図』、各社寺案内板・由緒書等
- Web (2015/12/13 アクセス)
- 北区魅力発信サポーター「つひまぶ」公式ブログ〈http://tshimabu.blogspot.jp/2015/05/blog-post_21.html〉、大阪府「大阪府知事が所轄している宗教法人名簿」〈<http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/14/00000000/meibo20150331.pdf>〉、大阪府神社庁「大阪府内神社の紹介」〈<http://www.jinjacho-osaka.net/osakafunai-no-jinjya/osakajinjyamap.html>〉、瀬藤禎祥「神奈備の大阪府神社名鑑」〈<http://kamnavi.jp/ichiranosaka.htm>〉、はなしの名どころ「中央区その2」〈<http://homepage3.nifty.com/nadokoro/nadokoro/55-2/55chuo2.htm>〉、網敷天神社「網敷天神社」〈<http://www.tunashiki.com/>〉、福島天満宮「福島天満宮ホームページ」〈<http://www.tenmangu.com/info.htm>〉、大阪市交通局「地下鉄・バスのご案内」〈<http://www.kotsu.city.osaka.lg.jp/general/eigyau.html>〉、京都十二薬師霊場会「京都十二薬師霊場会」〈<http://www.kyoto12yakuishi.net/>〉、宗教法人浄土宗「大阪新四十八願所阿弥陀巡礼 (大阪府)」〈<http://jodo.jp/25rei/ijo/osaka.html>〉